月刊自治研 5 2024
vol.66 no.776


| | | | |
|---|---|---|---|
| グラビア | 地域を支える人 菊地淳也さん及川香さん千葉敦仁さん・岩手県奥州市 | | 1 |
| 発掘！地域の希望のタネ | 〈焼津PORTERS〉静岡県焼津市 | | 5 |
| 給食のじかん | 給食室を飛び出して現業フェスティバルで学校給食をアピール—神奈川県本部 給食部会 | 木村みゆき | 6 |
| 書評 | 大森彌 編『自治体の係長マネジメント』 | 菅原敏夫 | 8 |
| 焦点 | 前代未聞の「定額減税」—いびつな政策が浮き彫りにした課題 | 中島昭浩 | 10 |

特集 自治研活動“はじめの一歩”

| | | | |
|---|---|---|---|
| インタビュー | さぁ自治研活動へ! | 石上千博 | 18 |
| | わたしたちが自治研活動をする理由 | 『月刊自治研』編集部 | 21 |
| | 地域発! 各県自治研活動レポート選 | | 27 |
| 座談会 | 自治研活動の“壁”を超えよう！ | 橋本麻友美＋林 佑宜＋中村果南子 | 32 |
| | 市民の力で社会を変える—コミュニティ・オーガナイジングに学ぼう！ | ラム レベッカ | 46 |
| | 震災を機に拡がる自治研の学び—西東京自治研センターと新地町との交流 | 後藤紀行 | 52 |
| | 自治研式・組織強化—静岡自治研を振り返って | 福井 淳 | 58 |
| コラム | 自分軸360度で自治研を語り合う。自治研活動をどう実践できるか—現場の悩み | 『月刊自治研』編集部 | 64 |
| あの時、私の職場では | コロナ禍において市民の足を守るために | 岡元 猛 | 67 |
| 地域おこし協力隊が行く! | 第12回 島根編❺雲南市 地域で暮らし働く若者を全力で応援 | 山下実里 | 70 |
| 結びつなげる! しまね自治研 | 海の幸・山の幸に恵まれ、石見神楽など文化財継承のまち 浜田 | 平野裕人 | 76 |
| 自治研活動レポート | 新たな自治研活動の形を模索する—香川県本部 | 久保武士 | 78 |
| | 自治研センターの機関誌案内 | | 16 |
| | 次号予告・編集部から | | 80 |


これを読め!

## 『自治体の係長マネジメント 上司・部下関係を実証分析で読み解く』

勁草書房 四四〇〇円

**大森彌** 編

**協働型調査・自治体職員**

東京二三区合同の組織、特別区協議会（特区協）に置かれた研究会が、自治体組織の内部構造の実態に関する研究をまとめた。自治体行政組織と人、適切で有能な公務員の人材確保、組織内人間関係、上司・部下関係に焦点を当てて詳細な研究を行った。調査研究方法は、Q方法論、P・Qセット、Q分類、セントロイド法、バリマックス回転…。

研究者と自治体実務者の「行政実務協働型調査」が可能になった。職員個人と自治体組織、認識や態度、選好に関して人を中心に総体的・体系的把握する方法論で得られた結論は分かりやすく表現されている。例えば「職員の仕事観」。本書ではその第一因子を「職員の〝カガミ〟」と表現し、「良好な人間関係を築くこと」を重視する傾向の強さを明らかにし、「最も仕事のパフォーマンスを悪くするのは、人間関係の悪化」、「上司との関係が悪い時には、悪い緊張感から普段しないようなミスをする」などの自由記入欄が紹介されている。

**係長の重要性**

職場の人間関係では、上司の柔軟性が重要で、責任感がその次、重要性が最も低いと考えられているのが決断力。こうやってあぶり出されてきたのが、本書の表題にもなった「係長の重要性」である。自治体を支える係長のリアル。

構造化して、マネージャーとしての役割、コーディネーターとしての役割、個（私）の側面が分析されている。この多面性が現代の係長の役割の特徴だ。

書評子の「感想」を付け加えることをお許しいただきたい。

この本の編者は大森彌さんだ。私たちは昨年の秋大森さんの訃報に接した。本書の「はじめに」の原稿を書き上げた直後に、本書の刊行を見ることなく急逝されたという。出来上がったこの本は、内容の硬さにもかかわらず、大森さんのあのちょっとしゃがれた声、洒脱な表現を思い出すことができる。

もう一つ。係長に期待されている役割は、少しずらせば、労働組合の職場のリーダーに期待されている役割と重なると思う。オルガナイザーとしての役割。

評者 **菅原敏夫** 本誌編集委員